

学校経営の構想

<p>【経営の基調】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係法規(日本国憲法 教育基本法 学校教育法等) ・小学校学習指導要領 ・熊本県教育大綱 第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン ・人権教育取組の方向、熊本県教育庁各課取組の方向 ・菊池教育事務所取組の方向及び重点努力事項 	<p>合志市教育委員会</p> <p>教育基本テーマ 未来を拓く心豊かな人材をともに育む</p> <p>学校教育努力目標 『志合わせて夢実現プロジェクト』を踏まえた小中一貫教育の推進</p> <p>キーワード【志を合わせる】+【協働】 4つの重点取組 5つの具体的実践項目</p>	<p>【児童・地域・学校の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、全体的に落ち着きつつある学習・生活態度で、学力は、比較的高い傾向にある。 ・旧合志町・旧西合志町の校区を持つ合志市で初めての学校である。 ・学校は旧菊池医療刑務支所跡地に建設され、菊池恵楓園に隣接している。 ・小・中学校の施設一体の小学校である。
---	---	---

[中学校区学校教育目標]
自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成

〈学校教育目標〉 **夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成**

<p>めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○笑顔とあいさつがあふれる学校 ○安全・安心で一人一人の居場所がある学校 ○保護者や地域に信頼され地域とともにある学校 	<p>めざす児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他の違いやよさを認め合い、自分の考えや思いを表現できる子ども ○夢を持ち、夢に向かって自ら考え学び続ける子ども ○しなやかで折れない心と体を持ち、困難に立ち向かい乗り越えようとする子ども 	<p>めざす教職員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性を持ち、人権感覚にすぐれた教職員 ○教育的愛情を持ち、児童・保護者、地域から信頼される教職員 ○組織の一員として、自分の仕事に誇りと責任を持ち、学び合い、学び続ける教職員
--	--	--

【学校経営方針】

- (1) 児童一人一人の可能性やよさを認め、ほめ、励まし、伸ばしながら、児童が夢を持ち、夢に向かって学び続け、学びを生かすことができる学校づくりを推進する。
- (2) 児童が安心して学べる教育環境を整備し、学習意欲の向上や豊かな心の醸成を図り、健康・安全の充実に努める。
- (3) 小・中学校施設一体型学校のよさや可能性を最大限に生かし、ICTの機器・環境等の活用を通して持続可能な学校づくりを推進する。
- (4) 学校内外への情報発信と、保護者や地域、関係機関と積極的に連携を図り、地域とともにある信頼される学校づくりに努める。
- (5) 教職員一人一人が学校教育目標の具現化のために、主体的に考え行動し、学年主任等のリーダーシップにより、組織的に教育活動を推進する。

重点努力事項			
確かな学力の育成	豊かな心の育成	たくましい身体の育成	特色ある学校づくり・職場環境等
<ul style="list-style-type: none"> ○教科担任制・交換授業による学習習慣・学習規律の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善 ○ICT機器を積極的に活用した教育活動の充実と多様な授業展開による学びの保障 ○一人一人のニーズに応じたUDの授業と特別支援教育の推進 ○学年統一による家庭学習課題への取組と読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権感覚を身に付け人権意識を育む人権教育の充実 ○「ローテーション道徳」と「考え議論する道徳」の授業実践 ○いじめ・不登校の未然防止の取組と早期解決に向けた関係機関との連携 ○規範意識と支持的風土の醸成による「隠れたカリキュラム」の推進 ○自己肯定感を伸ばす教育活動の充実によるレジリエンスの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携による体育・保健体育の授業交流と運動の日常化、習慣化の推進 ○安全教育(自他の生命尊重)の推進と防災教育の取組 ○命を大切に、健康・安全で幸福な生活のために必要な生活習慣の育成 ○早寝・早起き、朝食摂取等の習慣化と家庭と連携した食に関する指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○OCSを中心とした中学校区における連携・協働 ○ボランティア活動(児童会・JRC)の充実 ○グループウェアや校務支援システムによる業務効率化 ○小中教職員が連携・協働した教育実践 ○不祥事防止及び危機管理の徹底 ○働き方改革に向けた学校の意識変容と在校等時間縮減の推進

具体的実践事項

重点努力事項	具体的実践事項
<p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年担任制・交換授業による学習習慣・学習規律の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善 ○ICT 機器を積極的に活用した教育活動の充実と多様な授業展開による学びの保障 ○一人一人のニーズに応じた UD の授業と特別支援教育の推進 ○学年統一による家庭学習課題への取組と読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・9カ年での児童生徒の育ちを意識した本校の学習規律について共通理解・共通実践を図る。 ・全学年で授業開始前の黙想を取り入れるなど、落ち着いた雰囲気の中で学習を始める取り組みを行う。 ・身につけさせたい力を明確にし、「基礎・基本の徹底と主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」を行うことで、質の高い学びを実現し、資質・能力の向上を図る。 ・「xSync」、「Microsoft Teams」、「デジタル教科書」により探究型の学習を行い、「e ライブラリー」を活用することで、習得型の学習を行う。 ・不登校状況の児童に対しても、タブレット端末を活用した授業配信を積極的に行う。 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成に当たっては、全職員で共通理解・共通実践を図る。 ・特別支援学級においては、一人一人の教育的ニーズと特性を踏まえた上で教育課程を編成する。 ・UDの視点に立った授業を行うと共に、特別に支援を要する児童のために、教育介護補助員を適切に配置し、効果的な支援を行う。 ・学年の発達段階に応じた家庭学習を学年部で協議し、共通実践をする。 ・読書活動を通して言語感覚を養わせ、「ことばの教育」の充実を図る。 ・西合志図書館、合志マンガミュージアムと連携した読書活動を行っていくと共に、「熊日ライブラリー」を活用した読書活動を推進する。 ・メディアコントロールについて、児童及び保護者対象の講演会を開催する。
<p>たくましい身体育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中連携による体育・保健体育の授業交流と運動の日常化、習慣化の推進 ○安全教育(自他の生命の尊重)の推進と防災教育の取組 ○命を大切に、健康・安全で幸福な生活のために必要な生活習慣の育成 ○早寝・早起き、朝食摂取等の習慣化と家庭と連携した食に関する指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の体育教師が小学校(5・6年)へ乗り入れ授業を行うことで、より専門性の高い学習を保障する。 ・体力テストの結果を分析し、教科体育の指導にいかすと共に、「Let's 楓スポーツタイム」で体力向上に努める。 ・委員会活動などを通して、積極的に外遊びができるように働きかけていく。 ・校区内の各種ボランティア団体と協力し、通学路の安全を確保する。 ・児童が自分自身で考えて危機回避できるような指導を行っていく。 ・講師招聘による講話を行い、健康に生活するために必要な生活習慣について考え、行動できる態度を養う。 ・健康診断の結果を保護者にフィードバックし、病院受診を積極的に促していく。 ・朝食の摂取については、児童や保護者に各種便りや学校ホームページ等で啓発していく。また、PTA と連携して、「朝ご飯コンクール」を行い、食に関する関心と理解を深める。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権感覚を身に付け人権意識を育む人権教育の充実 ○「ローテーション道徳」と「考え議論する道徳」の授業実践 ○いじめ・不登校の未然防止の取組と早期解決に向けた関係機関との連携 ○規範意識と支持的風土の醸成による「隠れたカリキュラム」の推進 ○自己肯定感を伸ばす教育活動の充実によるレジリエンスの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・菊池恵楓園との交流を積極的に推進し、児童・職員の人権意識の向上を図る。 ・「差別の現実に学ぶ」ため、現地研修会やレポート研修などを計画的に行っていく。 ・縦割り人権集会（1～4年生、小5年～中3年）を行うことで、学びの啓発を行うと共に、人権意識の向上を図る。 ・「特別の教科道徳」の内容や趣旨について職員で共通理解し、ローテーション道徳を全学年で行う。 ・文部科学省の教科調査官を講師として招聘し、道徳についての校内研修を充実させる。 ・毎月、アンケート調査を行い、情報収集に努める。 ・校内における対策委員会を機能させるとともにケース会議に積極的に専門機関に入ってもらい、チーム学校として課題の解決を目指す。 ・月に1回の児童連絡会で行政、SSW等の専門機関との情報共有を図っていく。 ・SCとの連携など児童のフォロー体制を確立する。 ・情報集約者を中心に学年部でのチェック機能を確立させ、学校全体での情報の収集を図る。 ・児童にとって「居場所のある」学級、学校づくりが可能なための具体的な活動を提案していく。 ・給食や掃除など「隠れたカリキュラム」について中学校と連携した共通実践を行う。 ・あいさつ、返事、くつそろえなど「当たり前」な基本的な生活習慣について徹底させる。 ・自己肯定感を伸ばすことがレジリエンス育成の基盤であることから、各教科や特別活動等で成功体験を重ねたり、縦割り班活動などで認められたりする他者との関わり合いを図っていく。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特色ある学校づくり・職場環境等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○OCSを中心とした中学校区における連携・協働 ○ボランティア活動（児童会・JRC）の充実 ○グループウェアや校務支援システムによる業務効率化 ○小中教職員が連携・協働した教育実践 ○不祥事防止及び危機管理の徹底 ○働き方改革に向けた学校の意識変容と在学等時間縮減の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズに対応し、連携・協働しながら地域とともにある学校としての信頼関係を築く。 ・JRC活動について、児童会を中心に充実させ、その意義を全校に広める。 ・職員間での連絡やアンケート等において、グループウェアや校務支援システムを活用することにより、職員会議の職員朝会等の回数を減らす。 ・職員会議等の資料を校務支援システムに掲載することにより、ペーパーレス化を図る。 ・高学年を中心に中学校の職員と交流を行い、乗り入れ授業を行うことで、専門性の高い授業を行う。 ・それぞれの学校行事等でも互いに協力できる体制を整えていく。 ・管理職は、常に情報の提供を行い「学校から不祥事を出さない」職場づくりに努める。 ・若手の職員を中心にボトムアップ研修を定期的に実施する。 ・学年間でのオンライン授業配信を行うことにより自習の時間を少なくする。 ・毎週水曜日を「定時退勤日」として設け、定時退勤日が実施できるようそれぞれが放課後の作業の調整を行う。